

平成26年7月30日

公益財団法人テクノエイド協会 殿

（要望者）
〒105-6891
住所 東京都港区海岸1-16-1 ニューピア竹芝サウス7-8F
事業者名 株式会社安川電機
担当者所属 ヒューマンアシスト事業推進チーム
担当者名 平井 健一郎
電話番号 03-5402-4907
電子メールアドレス Kenichiro.Hirai@yaskawa.co.jp

介護ロボット等モニター調査事業交付金要望書

貴法人が福祉用具・介護ロボット実用化支援事業の一環として行う「介護ロボット等モニター調査事業」について、下記の書類を添付して申請します。

記

1. 介護ロボット等モニター調査計画書（別紙）
2. 会社概要（任意様式）
会社名 : 株式会社安川電機（YASKAWA Electric Corporation）
設立 : 1915年7月16日
本社所在地 : 北九州市八幡西区黒崎城石2-1
代表者 : 代表取締役会長兼社長 津田 純嗣
資本金 : 230億円
従業員数 : 連結 11,463名
売上高 : 3,636億円（2014年3月期）
3. モニター調査を行う介護ロボット等の開発経過がわかる書類（任意様式）
介護ロボット等モニター調査計画書（別紙）に装置概要を記載しています。

（書類の取り扱い等について）

- ご提出いただく「モニター調査計画書（別紙）」は、介護施設等とのマッチングのために公開いたします。公開可能な範囲において、できる限り記載してください。
- 「モニター調査計画書（別紙）」は、介護施設等とのマッチングに際して、インターネット等を通じて登録協力施設等へ情報提供します。
- 依頼する案件について、モニター調査に協力いただける介護施設又は団体等が現れない場合には、実施できない場合もあることを予めご承知置きください。

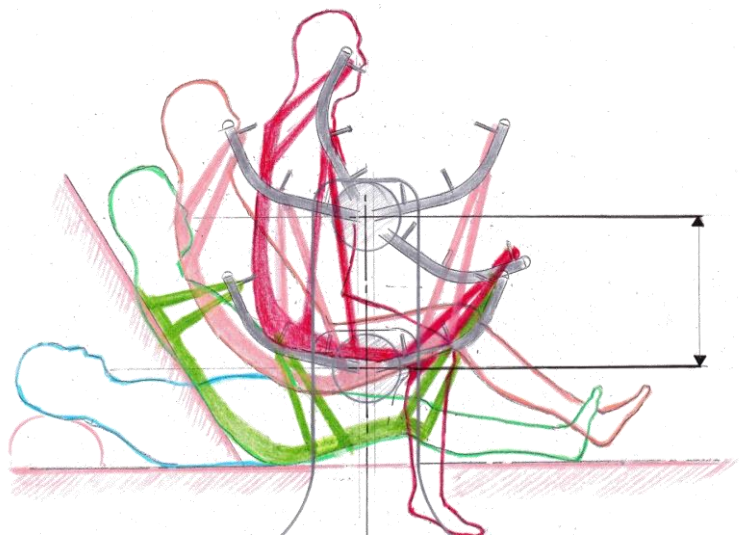
介護ロボット等モニター調査計画書

1. 申請者の概要

事業者名	株式会社安川電機	
担当者名	平井 健一郎	
担当者連絡先	住所	東京都港区海岸1-16-1 ニューピア竹芝サウス7-8F
	電話	03-5402-4907
	電子メールアドレス	Kenichiro.Hirai@yaskawa.co.jp
主たる業務	ロボット介護機器事業推進（マーケティング、企画、販売促進）	
主要な製品	移乗アシスト装置	
希望する施設等の種類・職種等	特別養護老人ホームを希望します。 施設内で理学療法士等に移乗アシスト装置を使う事による効果（車いすでの活動時間が増える等）を実証出来る施設を希望します。実証時期は、11月～12月頃の3週間程度を予定しています。	
希望するエリア	関東地区です（特に、東京都、埼玉県が良いです）。	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介助者の腰部等負担軽減 ・ 要介護者の安全な移乗動作 等を目的に、装置を使った移乗介助に関心がある施設の方を希望します。	

2. 申請機器の概要（可能な範囲でご記入ください。）

機器の名称（仮称）	移乗アシスト装置
機器の概要 （写真を添付すること）	<u>想定する使用者の状態像、使用環境</u> 特別養護老人ホームで生活されている、自力で端座位姿勢が取れない要介護度の比較的高い方（要介護度3～5、認知症の無い方）を対象としています。
	<u>機器の果たすべき目的</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ ユーザの移乗動作における安全性及び快適性の向上 ・ 介助者の移乗介助の省力化 ・ 移乗回数が増え、社会参加の機会が増える。
	<u>機器の機能、有用性</u> （1）介助者1人で移乗可能。簡単移動、簡単操作 移乗開始から終了まで、介助者が1人で要介護者をベッドから車椅子に移乗することが可能。全方向移動キャスターでベッド間や居室間の移動が自由自在。小型の操作ペンダントで簡単に操作できる。 （2）介助者に介護の負担を与えない 装置による抱え上げ等のパワーアシストで、介助者に負担を与えない。スリングシートを活用し要介護者の体型にかかわらずアームでのリフトアップが可能。 （3）次の動作に移りやすい姿勢制御 要介護者が、移乗後に行う様々な動作に適した姿勢が取れる姿勢の制御が可能。要介護者が正しい姿勢で座れるように、骨盤の傾斜制御を最適に行える。



比較すべき類似の機器あるいは方法およびそれに比べて優れている点

類似の機器として床走行式移動リフトがありますが、

×安全性 : ハンガー部に頭が当たる

×乗り心地 : 窮屈、揺れる(酔う)

×操作性 : 車いすを傾けないと正しく座れない

などのデメリットを聞きます。

本移乗アシスト装置は、自由に姿勢をコントロール出来、天吊りではなくストラップが短いため揺れること無く移乗することが可能となります。

機器に関するリスクアセスメント (安全性の評価と確保対策)

※アセスメント結果資料を添付して下さい。(様式自由)

現在の開発状況と課題

社外モニター調査の実施実績及びその結果

経験はありません。

現在の開発に関する課題

要介護者の体格に合ったスリット(S/M/L等)の開発が課題です。

3. モニター調査したい内容（特に登録協力施設等へお願いしたい内容）

※記載にあたっては、募集要項のP8を必ず参照してください。

※以下の項目についてモニター調査したい内容について記載してください。（今回要望しない項目は「特になし」としてください。）

※委員会等の審議により採択された場合には、協会及び専門家によるアドバイスをを行います。

<p>利用対象者の適用範囲に関すること</p>	<p>開発の狙いは、自力で端座位姿勢が取れない要介護度の高い方（要介護度3～5）のベッド⇄車いす、ベッド⇄PTL間の安全で適切な移乗介助をサポートする装置です。自立度の低下が想定される方には使用しません。</p> <p>■禁忌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仙骨部および身体に褥瘡が有る方 ・ 起立性低血圧が有る方 ・ 股関節が伸展拘縮している方 ・ 圧迫骨折が予測される方
<p>利用環境の条件に関すること</p>	<p>特養における各部屋間の装置の移動を想定しています。 装置の脚の幅が最大112cmありますので、それを確保できる通路間口が条件です。</p>
<p>機器の利用効果に関すること</p>	<p>介助者、介護サービスの負担軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 従来2名での移乗介助だったが装置を使う事で1名で移乗出来るようになり、施設全体での就労時間が変化した。 ・ 腰痛等が変化した。
<p>機器の使い勝手に関すること</p>	<p>開発の狙いは、自力で端座位姿勢が取れない要介護度の高い方（要介護度3～5）のベッド⇄車いす、ベッド⇄PTL間の安全で適切な移乗介助をサポートする装置です。移乗後の活動がし易い姿勢が目標ですが、今回の指標としては、装置を使用する前後での</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 要介護度（自立度の低下が想定される方には使用しません） ・ 移乗回数 ・ 車いすでの活動時間 <p>等の観測を予定しています。</p>
<p>介護現場での利用の継続性に関すること</p>	<p>継続して利用したい理由 継続して利用したくない理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 装置を使用する事で、著しく移乗介助時間が長くなる。 ・ 装置を使用する事で、要介護者／介助者のいずれかに心身的ストレスを感じる。 <p>等をヒアリング、アンケート調査（無記名）したく考えています。</p>
<p>その他</p>	

（注）必要に応じて記載欄を増やして記入してください。